

Saku Museum News

佐久市立近代美術館ニュース

No.4

2025.3

駒場公園の野外彫刻マップ

昭和58年(1983)の近代美術館の開館にあわせて、美術年鑑社前社長の油井一二氏が寄贈した彫刻群。それから41年が経過し、台座等も含めて劣化が進んでいました。令和6年(2024)10月、現在の同社代表取締役社長の油井一人氏からの寄付により、修復とメンテナンスが行われました。



駒場公園と佐久創造館内には油井一二のコレクションだったブロンズ像(彫刻)があわせて17点あります。北村西望(1884-1987)をはじめとした著名な作家の作品ばかりです。昭和55年、駒場公園の開館にあたり、ブロンズ像の配置を考えた田辺光彰(1939-2015・彫刻家)は、公園内の最もふさわしい場所に、ふさわしい形式で作品を配置しようと試みたのではないかと思います。公園の入園口にゼウスに連れ去られるエウロペ、公園中央にも思う女性、児童公園内に母子像が設置されました。

場所と作品に関連性はないのかもしれませんが、設置すべき場

所に設置されていると思えたりもします。田辺の制作のテーマをひとことで表すと「交流」です。作品の場所と置き方で、交流が生じているのだと感じます。公園と彫刻作品の交流です。これを人が見つ、公園内を移動し、人が関わっていきます。

高さ4メートルの台座の上に設置された彫刻を、地に立った人が見上げます。その先の空と、地の交流が始まります。

こうして、文化振興の目的を持った公園に「交流」が生まれていきます。田辺は、この駒場公園内に自作の彫刻《さく》も残しました。どんな交流を目指したのでしょうか。(土屋 信/写真:小山雅比古)

活動紹介

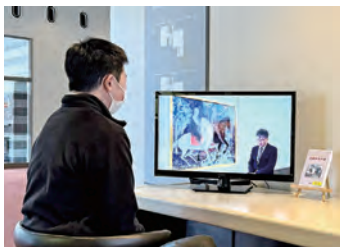
市民の研究活動のお手伝い

「公民館報さくし」に「誌上講座 佐久の先人⑩岡村政子」が書かれたのは2024年7月のこと。公民館報編集委員の高橋あやさんが独自調査の成果をもとに執筆されました。岡村政子は日本の初期石版画史上に大きな役割を果たした石版画家です。直筆作品の多くは火災により焼失しましたが、山室次郎著『岡村政子伝 明治石版画界の異彩』（尚美印刷工芸社 1962年）には図版《浅間山スケッチ》が掲載されています。高橋さんは、作家がこの絵を描くときに立っていたと思われる場所を探し出しました。そこでは、地元の皆さんがテーブルや椅子を設置して、四季折々の風景を楽しみ、植物を植え、地域の歴史を研究されていました。岡村政子のスケッチをきっかけに佐久地域の歴史や植物の研究グループに出会えたことは近代美術館にとって幸運でした。意外に思われるかもしれませんが、近代美術館の調査や研究は、このような市民の活動によっても支えられているのです。



岡村政子《浅間山スケッチ》1877(明治10)年

現在の岩村田公園、招魂社より浅間山を望む。テーブルの奥に切り株があり、スケッチに描かれた樹木であると推定される。



近代美術館エントランスでの視聴の様子

NPO法人佐久生活文化推進機構の柳澤潔さんは、当館所蔵の平山郁夫《仏教伝来》(1959年)の関係者インタビューを行い、DVD『平和への祈り 仏教伝来の道』を制作されました。作家をよく知る方々のインタビューには、次世代に伝えるべき大変貴重な証言が収録されました。その内容は現在、近代美術館エントランスホールで視聴することができます。これは、佐久の文化発展を願う思いと行動力によって実現しました。当館は、市民の皆さん同士の共創、協力、連携を目指した情報共有や、活動の場を提供する役割も担います。その成果が共有され、さらなる交流につながれば、これほど嬉しいことはありません。(日比野ルミ)

修復プロジェクト

令和7年度「日本画・^{しもだよしひろ}下田義寛《花の時》を修復したい！」

画面に描かれている二匹のサル、そしてその手に抱かれている子。どこか幻想的な雰囲気が漂いながらも優しさに溢れているこの絵は、日本画家・^{しもだよしひろ}下田義寛(1940-)によって描かれました。

下田は富山県出身の日本画家です。東京藝術大学に学び、卒業後は同大学院に進学、^{ごうくら}郷倉千勲に師事しました。修了後は同大学の非常勤講師となり、日本美術院院友に推挙されました。1970年に第55回院展で日本美術院賞(大観賞)を受賞、1978年に若くして日本美術院同人に推挙されました。その後も日本美術院を中心に活躍し、1979年の第64回院展で文部大臣賞を受賞、1981年に日本美術院評議員に推挙され、1983年の第68回院展で総理大臣賞を受賞しました。

本作品は、1975年の第30回春の院展の出品作です。下田の絵画の特徴は、イメージの重層化、いわゆるダブル・イメージの手法を用いて自然を表現している点にあります。本作品の画面の上部には波紋に映る大きな月が描かれ、中央のサルの周囲には花や木が描き込まれています。サルといえば春に出産することで知られていますが、小さな子を抱くサルと画面に描き込まれた花によって、タイトルにもなっている「花の時」を鑑賞者は直観することができます。

下田の絵を目にしたとき、多くの人が感じるのはその幻想性ではないでしょうか。シルクスクリーンの技法を採り入れたり、あるいは月の部分に薄紙を貼ったりなど、様々な技法を用いて繊細に構成された画面からは、叙情的な雰囲気が漂ってきます。

一方で、様々な技法を駆使して制作された作品の場合、これらが原因で劣化の進行が早まることもあります。作品を未来へと繋いでいくためには、適当な時期に必要なメンテナンスを行なっていくことが必要不可欠なのです。

(前川知里)



下田 義寛《花の時》1975 年

佐久市内の小中学校との交流

【企画展示】スクール × ミュージアム

佐久市立近代美術館では、令和6年度、国立科学博物館が主催する「教員のための博物館の日」へ初めて参加し、「教員のための美術館の日」(令和6年7月29日)を開催しました。この企画は佐久教育会夏期研修講座「わくわく造形活動IX」とタイアップして行い、29名の教員のみなさんが参加しました。その後、参加者の中から希望があった佐久市立高瀬小学校と佐久市立野沢中学校と連携して、佐久市立近代美術館を会場にワークショップを開催しました。【企画展示】スクール × ミュージアム(会期: 令和7年2月8日～2月24日、場所: 佐久市立近代美術館 第4展示室)では、その活動記録や、高瀬小学校、野沢中学校美術部の児童生徒がワークショップをきっかけに制作した作品(各28点)を展示し、市内小中学校と佐久市立近代美術館の交流を紹介しました。

教員のための美術館の日

「教員のための博物館の日」(主催: 国立科学博物館、共催: 公益財団法人日本博物館協会、佐久教育会、後援: 文部科学省) 連携事業
夏期研修講座「わくわく造形活動IX」(佐久美術教育研究会) タイアップ事業
開催日: 令和6年7月29日

美術館の特徴と美術作品、展覧会、実技ワークショップなどの学習資源の活用方法を講座と対話型鑑賞、展覧会ガイドを通して紹介しました。

高瀬小学校 × 佐久市立近代美術館

ワークショップ「でこぼこ はっけん！」

佐久市立高瀬小学校 1年東組 28名 開催日: 令和6年10月25日
場所: 佐久市立近代美術館 1階ロビー

「でこぼこ はっけん！」は身の周りにあるさまざまな「でこぼこ」をみつけて粘土で形をとるワークショップです。壁や床、椅子などから思いがけない「でこぼこ」を発見した児童たちは、楽しそうに会場のあちこちを探索しました。始めは粘土を押し付けるだけでしたが、次第に「でこぼこ」の取り方を工夫したり、友達どうして教えあったり、出来た「でこぼこ」を組み合わせて新しい形をつくったりと、どんどん創意工夫をしていきました。筆者は当初、怪我をしないか、楽しんでもらえるかと心配ばかりしていましたが、生き生きとした児童の姿から、大切なのは「子ども達が自らの力で自身の中にある可能性を開いていく、そのために美術館は何ができるのか」を考えていくことではないかと改めて教えてもらいました。



野沢中学校 × 佐久市立近代美術館

ワークショップ「模写してみよう」

佐久市立野沢中学校 美術部 19名 開催日: 令和6年9月1日
場所: 佐久市立近代美術館

【企画展】平山郁夫のスケッチ帖一仏教の来た道・シルクロードをたどる旅、【コレクション展】佐久市立近代美術館 素描コレクション(令和6年7月13日～9月1日)の会期中に、常設展示を含めた美術館に展示している全ての作品を対象に模写を行いました。約2時間、生徒たちは真剣に作品と向き合い取り組んでいました。後日、生徒たちは模写から着想を得て制作した作品を【企画展示】スクール × ミュージアムに出品しました。それぞれの生徒の瑞々しい感性を通して再構築された作品は彼らの制作の未来を感じさせました。美術館にある実物を模写することは、作品を全身で感じながら作者の意図や技法を追体験できる貴重な体験です。生徒たちには、これからも先人たちが残した多くの優れた美術作品と出会い、豊かな情操を育てほしいと願っています。



学校と美術館の交流を通して、子ども達によりよい学習の機会を設けたいという先生たちの想いが伝わってきました。これからは、美術資料をはじめ学習資源となるさまざまな活動を提供し、美術を通じた博学連携に努めていきたいと思います。(由井はる奈)

月替わり
コレクション
紹介



佐久市立近代美術館の収蔵作品(解説つき)を1ヶ月限定で紹介しています。
佐久市立近代美術館のホームページをご覧ください。

<https://www.city.saku.nagano.jp/museum/>

←佐久市立近代美術館の非公認応援キャラクター「いちじくん」



佐久地域ゆかりの作家

しおかわたかとし

塩川高敏 (1948-2017)

水中で誰もが感じたことがあるだろう浮遊感。塩川高敏は、その浮遊感をテーマに約40年にわたって「浮游」シリーズを手掛けてきました。(図1) 塩川は、浮遊というとらえどころのない極めて感覚的な現象を確かなデッサン力と細密描写、優れた色彩感覚によって描きだし、空高く舞い上がるのではなく少しだけ浮いて漂うといった現代社会に生きる人間の心象風景にも通じる絵画世界を展開しました。(図2)

塩川は、1967年(昭和42)東京藝術大学美術学部油画科に現役で入学し^{わきたか}脇田和に学びます。その後、同大学大学院美術研究科に進み^{かのすえ ひろし}彼末宏に師事し、1974年(昭和49)以降は母校の助手や美術予備校、カルチャーセンターなどの講師をしながら、国画会に所属して活動しました。2000年(平成12)からは尾道市立大学(広島県)の設立に携わり美術学部の構想、設計などに尽力。同大学教授を経て2011(平成23)には副学長に就任し、2016年(平成28)に病で役職を離れるまで教育の現場に立ち続けました。

塩川と佐久市のつながりは幼少期にあります。塩川は1948年(昭和23)北佐久郡小諸町(現小諸市)に生まれました。5歳の時に家庭の事情で父の従兄弟だった^{やしまさだお}矢島貞男に預けられます。矢島は東京美術学校(現・東京藝術大学)油画科に学び、自由美術協会に所属、長野県岩村田高等学校(佐久市)などに勤務した美術教師でした。塩川はその後、佐久市内の父方の実家に移り、佐久市立岩村田小学校、佐久市立浅間中学校に通学します。絵を描くのが好きな子どもで小学5年生の時に描いた種畜牧場(現・家畜改良センター茨城牧場長野支場)から望んだ浅間山の油彩画が今も残っています。(図3)

塩川と矢島は成人してからも交流が続きました。佐久市出身の画家・^{まさの}牧野一泉は、岩村田高等学校教諭だった矢島の紹介で塩川と出会います。その後、牧野は東京藝術大学に進学し、同大学院生になっていた塩川と自宅やアトリエを往来しました。1982年(昭和57)には、塩川の声がけで、小諸市出身の版画家・^{たむらふみお}田村文雄と、塩川、牧野による「佐久三人展」を西友岩村田店市民ホールで開催しています。

大学進学を期に上京し、その後、鎌倉・横浜で制作し、2000年以降は尾道市との2拠点で活動してきた塩川について、その完成度の高い画業にもかかわらず、佐久市ではこれまであまり調査が進んでいませんでした。すでに故人であること、まとまった資料が少ないことから調査は地道な作業の積み重ねが続きます。しかし、足跡をたどり、ご遺族をはじめ生前を知る方々への調査を進めていくにつれ、しだいに塩川の人物像と埋もれていた佐久地域とのつながりが立ち現れてきました。2001年(平成13)には、塩川が佐久市立近代美術館に来館した記録も残っています。

かつて、佐久の地で、油絵道具を抱えて牧場までの約30分の坂道を自転車で通い、夢中になって浅間山を描いていた少年が、いかにして画家に、そして教育者になったのか。佐久市立近代美術館はこれからも塩川高敏の調査を続けていきます。(由井はる奈)



図1《浮游》1993年、油彩・キャンバス、個人蔵



図2《貌・'09》2009年、油彩・キャンバス、個人蔵



図3《無題》(佐久市、種畜牧場から描いた浅間山風景) 1958年、油彩・キャンバス、個人蔵

編集後記

Saku Museum News (佐久市立近代美術館ニュース) vol.4は、佐久市立近代美術館のホームページでもお読みいただけます。毎年、ふるさと納税型クラウドファンディングで経年により損傷している美術作品の修復を行っています。市の美術館として所蔵している貴重な美術作品を後世に受け継いでいくための大切な事業です。本年も多くの方にご支援をいただき11人と1団体で235,000円のご寄附をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。広く市民の皆様に美術館の事業を紹介することを中心に編集しました。掲載した記事について、お気づきの点や感想などを、書面等でお寄せくださいましたら幸いです。今後も地域の皆さまに寄り添った教育・研究機関としての役割を果たすための参考とさせていただきます。(大工原二郎)

佐久市立近代美術館ニュース No.4

発行日 2025年3月21日

編集・発行 佐久市立近代美術館 油井一二記念館

〒385-0011 長野県佐久市猿久保 35-5 (駒場公園内)

TEL 0267-67-1055 FAX 0267-67-1068

<https://www.city.saku.nagano.jp/museum/>

デザイン・印刷 キクハラインク

